

施策

章	2	ともに学ぶ、文化とふれあいのあるまち
大項目	01	生涯学習、スポーツの推進
施策	01	学習・教育環境の充実

目的

21世紀を担う子どもたちが、心身ともにたくましく成長するために、家庭、地域と学校の連携を進めるとともに、学校教育及び学校外教育環境の充実を図ります。

対象・手段

対象：子ども、家庭、地域

手段：地域の協力を得て社会体験学習などを実施し、地域の教育力の向上に努めます。
 学校教育の充実と教育基盤整備を総合的に推進し、新宿区らしい特色ある教育を目指します。
 また、新たな視点に立った就学前教育を推進します。

施策の方向

家庭、地域、学校の連携を基本に子どもの健全な育成を推進していきます。
 教育環境の変化に対応した特色のある教育内容・方法の開発、学校図書館の充実など学習環境の整備を図るとともに、学校適正配置の推進、教育環境の改善と充実を図ります。さらに、新たな視点に立った就学前の子どもの教育・保育環境づくりを推進していきます。

成果指標

成果指標

成果を計る測定可能な指標

指標名	定義	目標水準
連携事業後の地域団体の自主的活動数	目標値に対する実施数	(毎) 年度に (100%) の水準達成
中長期的な視点に沿って特色ある学校づくりに取り組む学校	左記の内容に取り組む学校数	(毎) 年度に (全校) の水準達成
「学校適正配置のビジョン」に基づく、地域別達成状況(小学校)	小学校全3地区(淀橋地区、四谷地区、牛込地区)の適正配置	(平成19) 年度に (全地区) の水準達成

施策の達成状況

		単 位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	備 考
施策 成果 指標	目標値1	回	3.00	3.00	3.00	17年度統廃合により2校減になっています。
	実績1	回	3.00	3.00	3.00	
	目標達成率1 = /	%	100.00	100.00	100.00	
	目標値2	校	44.00	42.00	42.00	
	実績2	校	44.00	42.00	42.00	
	目標達成率2 = /	%	100.00	100.00	100.00	
	目標値3	地区	3.00	3.00	3.00	
	実績3	地区	2.00	2.00	2.00	
	目標達成率3 = /	%	66.67	66.67	66.67	

主な取組み

家庭教育学級、家庭教育講座、PTA研修会、地域の教育力を考えるフォーラム、地域の教育力との連携事業の実施、情報誌の発行
 少人数学習指導を推進するため、TT(ティームティーチング)及び少人数授業のための教員を配置
 幼稚園と保育園の連携・一元化(愛日・中町幼保連携の実施、四谷子ども園の開設)
 学校選択制度実施に向けた学校案内冊子や制度周知チラシの発行、学校公開、学校説明会
 戸塚・大久保地区中学校の適正配置、四谷地区小学校の適正配置、西戸山地区中学校の適正配置

主な取組み
18年度の実施状況

課題

子どもの健全育成のため、地域や家庭の教育力の向上を支援する取組みの充実や、就学前の子どもの教育・保育の豊かな環境づくりが課題です。
 「確かな学力」の定着と個性と創造力を伸ばす教育をさらに進めるため、わかりやすい授業の創造や授業内容を向上させる具体的な取組み、少人数学習指導や学校選択制度等の効果を検証していくことが課題です。

課題
目的に対する実施状況上の問題
成果に対する実施状況

評価

総合評価	
<p>本施策は、家庭、地域、学校の連携を基本に子どもの健全な育成を推進し、教育環境の変化に対応した特色のある教育内容・方法の開発、学校図書館の充実など学習環境の整備を図るとともに、学校適正配置の推進、教育環境の改善と充実を図ることを目的としています。</p> <p>幼稚園と保育園の連携・一元化では、四谷子ども園を開設するとともに、合同研修を通して職員相互の理解が深まり、日常的な連携の取組みにより保護者の安心感・期待感につながっています。</p> <p>家庭や地域の教育力の向上については、保護者自身が主体的に講座の運営に携わり、家庭教育に対する意識の高揚が図られました。また、活動に関わった地域の大人たち同士の連携も増えており、地域の人材育成、地域全体で子どもを育成する意識の向上につなげることができたことと評価しています。</p> <p>特色ある学校づくりでは、平成17年度に各校(園)ごとに策定した「特色ある学校づくり教育活動計画」に沿って、経営上の目標を的確に設定しつつ、実践を続けています。予算編成の段階から校(園)長の裁量を拡大する取り組みとして、概ね順調に事業実施できたものと評価しています。</p> <p>少人数学習指導の推進では、個に応じたきめ細かな指導への各学校・保護者からの期待は高く、区の費用負担による講師派遣により指導体制を充実させ、確かな学力の育成に成果をあげています。</p> <p>学校の適正配置計画は、第六次学校適正配置計画を進め、19年度四谷小学校が開校しました。第五次学校適正配置計画については、関係者の協力により計画どおりに進み、20年2月の新校舎竣工に向けて建設工事に着手しました。また、西戸山地区中学校の適正配置は第七次学校適正配置計画が決定し、統合協議会での協議を進めています。</p> <p>心身障害教育の充実では、小学校2校目の通級指導学級の開設に続き、中学校に情緒障害通級指導学級を新設し、小中学校を通じて情緒障害、自閉症、学習障害、注意欠陥多動性障害等の児童生徒に専門的な教育の場を設けることができました。</p>	B

総合評価
目的や成果が達成できているか、いないか、評価している

総合評価
A: 目標以上の成果
B: 計画どおりの成果
C: 制度改正により見直し
D: 目標を下回った

今後の取組み・改革の方針

子どもの「学力」や「学ぶ意欲」の低下に対する不安や議論が展開される中で、「確かな学力」の育成や個性を伸ばす教育の推進が強く求められています。また、子どもたちが家庭や地域で過ごすうえで、家庭や地域が果たす役割は大切さを増しており、学校教育と家庭・地域の教育力がそれぞれの機能を補完しあいながら運営されることが必要です。教育の環境整備の面では、学校の適正配置を更に進め、よりよい教育環境と地域開放にも配慮した魅力ある学校づくりを進める必要があります。今後は、「確かな学力」の育成のため学校の体制づくりを進めるほか、わかりやすい授業の創造と教員の資質・指導力の向上が課題です。学校と家庭・地域の教育力との連携では、地域の人材の掘り起こしや相互連携の円滑化を図るとともに、家庭の教育力向上のため、保護者の学びの機会を拡充することが必要です。また、学校適正配置においては、計画を進める際に計画段階から地域住民の意向を確認する手法を検討していきます。

今後の取組み・改革の方針
課題に対する今後の方向性

総合評価
A: 目標以上の成果
B: 計画どおりの成果
C: 制度改正により見直し
D: 目標を下回った

施策を構成する計画事業

	総合評価	頁		総合評価	頁
家庭の教育力の向上	B	65	地域学校協力体制の整備	B	79
地域の教育力との協働・連携の推進	B	67	心身障害教育の充実	A	81
特色ある学校づくり	B	69	幼稚園と保育園の連携・一元化(再掲)	A	39
情報教育の推進	B	71	学校適正配置の推進	B	83
少人数学習指導の推進	B	73	学校施設の計画的整備	B	85
確かな学力推進員の配置	A	75	学校施設の改修	B	87
学校図書の実践	B	77	学校施設の改善	B	89

事務事業評価編のページ